

小城市立岩松小学校 学校だより 第39号	 岩松小だより	令和8年1月30日発行 発行者 校長 真子靖弘
-------------------------	---	----------------------------

平和のバトンを次世代へ 子どもたちが誓った未来

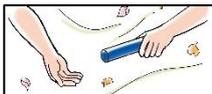
1/27(火)、**平和集会**を実施しました。
4～6年生の**実行委員7名**が、昼休みを惜しんで準備を重ねてきた集会です。



【ねらい】 戦争や原爆の恐ろしさを知り、平和と命の尊さを感じ、平和な世界を築こうとする心を育てる。

集会ではまず、**実行委員**が永井隆編『原子雲の下に生きて』より、被爆体験記を朗読。続いて**各学年**の発表が行われ、特に**6年生**は長崎修学旅行の成果として、戦時下の状況から被爆の惨状までを詳しく伝えました。**「戦後80年。体験者が減る今、平和のバトンを私たちが次世代へつなぎたい」**という力強い言葉が印象的でした。最後は実行委員考案の**「誓いの言葉」**を全校で唱和し、平和への決意を新たにしました。

私からは、「**平和を守り抜くための3つの視点**」を話しました。



【視点1】 悲しみと教訓を学ぶ：空襲や原爆で奪われた多くの命。その事実を知り、痛みを想像すること。

【視点2】 ルールと対話の徹底：日本国憲法が掲げる平和主義。武力ではなく、民主的な対話で解決を目指すこと。

【視点3】 国際協力と個人の役割：平和は一国では成せません。一人ひとりが平和な国を築こうと願い、行動すること。

この集会が、子供たちにとって平和の尊さを深く考える契機となることを願っています。

届け、私たちのありがとう

戦後、12/24は「**学校給食感謝の日**」、1/24からの1週間は「**学校給食週間**」と定められました。本校でもこの期間、給食の意義や役割について児童と共に学習を通して理解を深めてきました。その取り組みの一つとして、日々美味しい食事を届けてくださる**給食センターの方々へ、感謝の気持ちを込めた掲示物**を作成しています(写真)。



当たり前には食べられる毎日の給食に改めて感謝し、食の尊さを学ぶ大切な機会となりました。

放送室から届く『後輩への贈り物』

給食の時間、校内には**放送・環境委員会**による楽しい番組が流れています。各委員会からのお知らせやリクエスト曲が流れる中、最近特に私たちの心を温めてくれているのが「**6年生からのお知らせ**」です。

そこには、卒業を控えた6年生たちが、自分たちの手で学校をより良くしようと願う「**生きた言葉**」が詰まっています。



<放送で届けられた「6年生の言葉」>

【語先後礼の姿を見て】

「今日は登校する時、たくさんの人たちが止まって帽子をとり、語先後礼ができていました。来週も続けていきましょう!」

【あいさつの習慣を願って】

「今日、あいさつはできましたか? できた人は続けていきましょう。できなかった人は、今日の帰りや明日の朝、ぜひチャレンジしてみてください!」

【ぼかぼか言葉の輪を広げたい】

「何かしてもらった時に、『ありがとう』と言うだけで、言った人も言われた人も嬉しい気持ちになれます。みなさんも、意識してみてください!」

これらのみずみずしい言葉を、皆様はどう感じられたでしょうか。誰かに言われるのではなく、「**自分たちの学校生活を、自分たちの力で楽しく、より良いものにしたい**」という**主体的なエネルギー**に満ちあふれています。卒業まで残り47日。6年生は、自分たちが大切にしてきた「あいさつ」や「感謝の心」を、**目に見えない「バトン」**として後輩たちに残してくれています。その姿は、まさに下級生の憧れであり、本校の誇りです。心からの感謝を贈りたいと思います。

家学(うちがく)を習慣に!

本日まで「**家学がんばろう週間**」でした。ご家庭での取り組みはいかがだったでしょうか。学習が一時的なものではなく「**習慣**」として定着するよう、これからも学校と家庭で手を取り合い、温かく支えていきましょう。